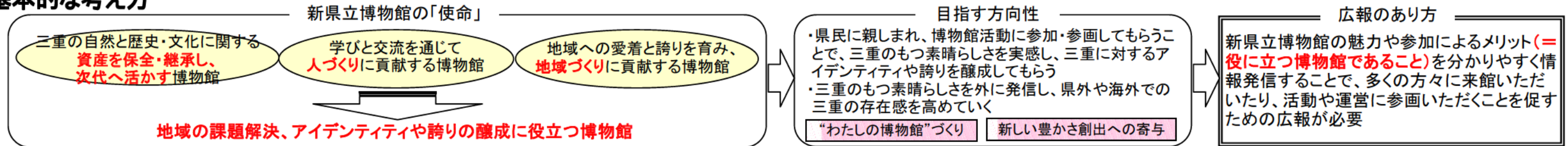


新県立博物館に係る広報戦略(最終案(たたき台))の概要

I. 基本的な考え方



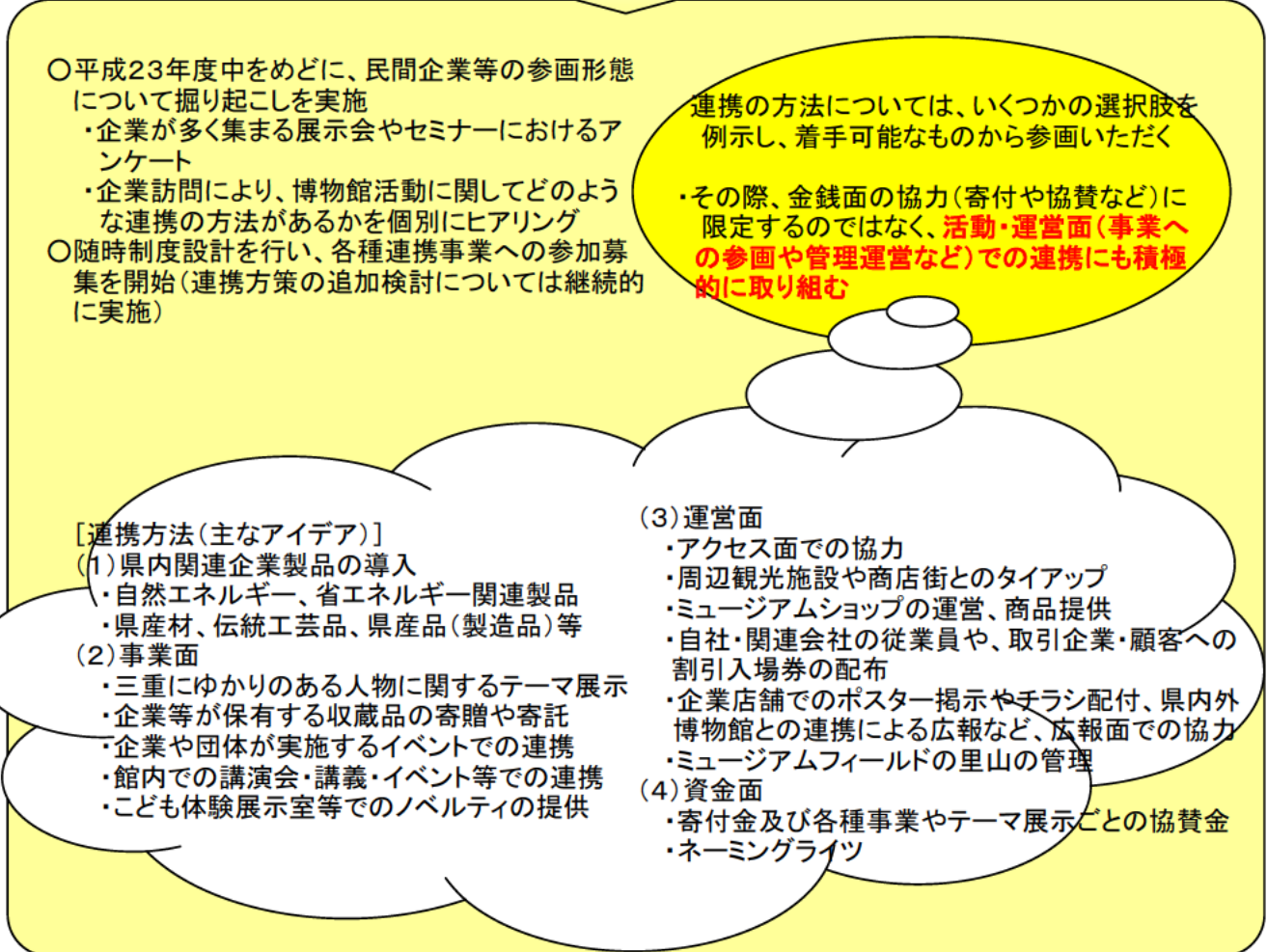
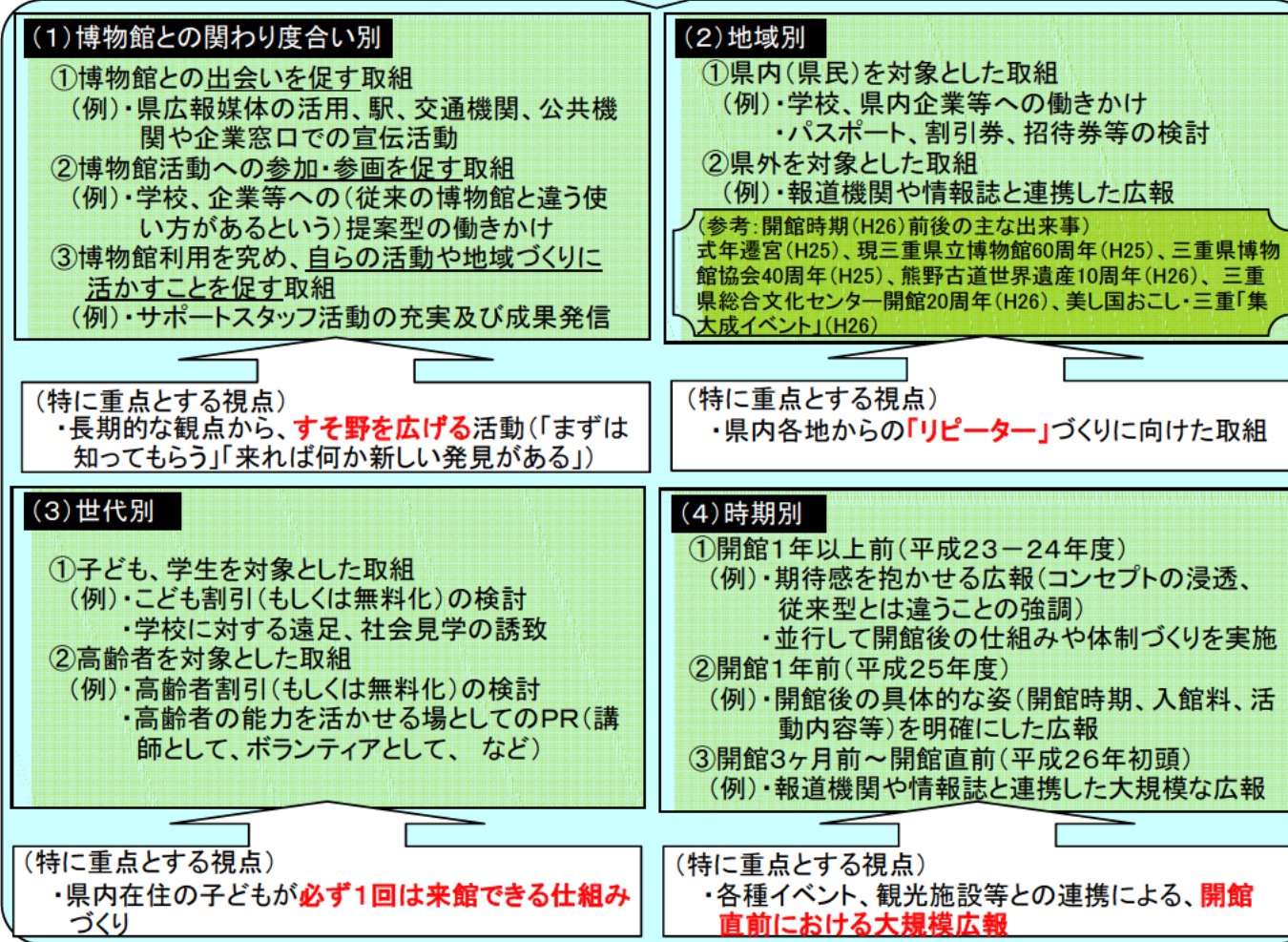
1. 使ってもらえる博物館となるために(利用者の増加に向けて)

- 博物館の存在や参加することの面白さを知ってもらうための幅広い広報活動を実施
- 加えて、県民一人ひとりの興味や関心に応じた博物館活動を可能とするために、また、県外に対して効果的なメッセージを発信していくために、「博物館との関わり度合い」「地域」「世代」など、様々な視点から、それぞれターゲットを絞った広報活動も展開

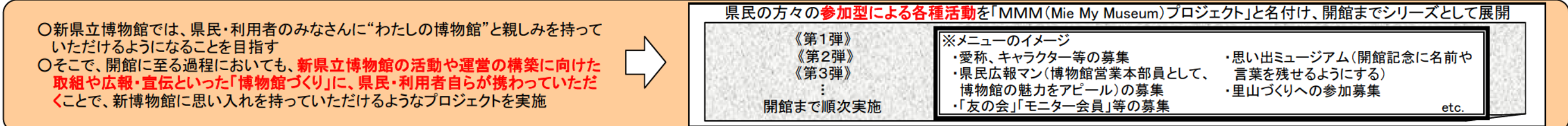
2. 活動と運営のパートナーづくりに向けて

- 三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている県内企業や団体、NPOといった民間部門は、“わたしの博物館”さらには“みんなの博物館”づくりを実現するために欠かせないパートナーの一つ
- そこで、こうした民間部門との連携を促進する取組も、当館における広報戦略の一つとして位置づけ

II. 開館に向けた広報戦略



III. 県民体験参画型活動(MMM[Mie My Museum]プロジェクト)の展開



IV. 効果的な広報の実施に向けて

- 新県立博物館単独での広報活動には限界があること、また、開館前後には三重を国内外にアピールできる出来事が多くあることから、これらに関連する機関等と連携しながら進める
- 開館に向けた広報を展開する中で、開館後の広報活動にどうつなげるかを念頭に置きながら活動。特に、開館直前の広報は、開館後の広報に向けた試行と位置づけ
- 県民・利用者、企業等、顧客の声(モニター)を随時受け付け、評価、改善に反映させる仕組みを構築することにより、顧客ニーズに柔軟に対応
- 継続的・効果的な広報を実施していくための体制の確立については、引き続き検討